昭和１００年　終戦８０年

しろたへ

安房神社報
第二十八号

戦前の安房神社一ノ鳥居（木製）前
社号標と定札の位置が現在とは逆である

安房神社献詠歌集より

縣立安房高女第四學生　印東芳江

―　みやしろのおくにしつまるみ鏡に
我は祈らんこころ静かに　―

仝　山田光子

―　すかたみにうつらふ姉の晴衣装
幸おほかれと祝ひまつるも　―

この巻頭の歌は昭和十四年一月十日発行の当社社報「安房」に掲載された「献詠歌集より」内の一首です。本年は昭和百年・終戦八十年の節目の年にあたり、昭和の昔を顧み旧社報「安房」から巻頭の歌を選びました。当時の高校生の表現の豊かさや奥ゆかしさが、この歌から垣間見れます。昭和が終わりを告げて三十七年余り、今を生きる我々にとって、昭和とは遠い昔のように感じてしまいます。ましてや、平成・令和生まれの人々は「昭和を知らない」世代です。過去を顧み、今を生き、将来が明るい世相であることを願ってやみません。

【執り行われた主な祭典】

十一月二十三日	午前十時	新嘗祭
十一月二十六日	午前十時半	新穀感謝祭
十二月二十六日	午前九時半	神狩祭
十二月三十一日	午後四時半	大祓式・除夜祭
一月　一日	午前六時	歳旦祭
一月　四日	午後四時半	有明祭
一月十四日	午後四時半	置炭神事
一月十五日	午前九時	粥占神事
二月　三日	午前十時半	節分祭
二月十一日	午前九時半	建国際
二月十七日	午前九時半	祈年祭
四月　三日	午前九時半	神武天皇祭遥拝式
四月十九日	午後三時	御田植祭
五月十日	午前九時半	下の宮祭
毎月一日	午前九時半	月次祭

【今後の主な祭典予定】

五月二十七日	午前九時半	海軍落下傘部隊慰霊祭
六月　十日	午前九時半	厳島社祭
六月　三十日	午後四時半	夏越の大祓式
七月　十日	午前八時	忌部塚祭
八月　十日	午前十時	例祭
九月　七日	午後三時	抜穂祭
九月　十日	午前九時	御仮屋祭
九月十四日	午前十時半	安房国司祭　於鶴ケ谷八幡宮
九月二十七日	午前九時半	琴平社祭
十月　十日	午前九時半	館砲三期会慰霊祭
毎月一日	午前九時半	月次祭

境内散策(五)

当社の境内は四季折々豊な自然に囲まれております。写真右は「シャガ」という中国原産のアヤメ科アヤメ属の花でかなり古くに我が国へ入ってきた品種だそうです。この花は繁殖力が非常に強く地下茎を伸ばして広範囲に広がるために、ご家庭の庭での管理は特に気を付けなければなりません。こちらは筆者が下之宮下の社号標付近で見つけました。

左は社務所正面玄関前のツツジです。朝露に濡れ、瑞々しい姿で参拝者をお迎えしておりました。当社では毎年四月～五月にかけて、赤ピンクの種と白い花弁のツツジが皆様をお迎えしております。

神道古典（三）「宣命（せんみょう）」

宣命とは、古代日本において、天皇の意志や命令を公的に伝えるために用いられた文書のことです。特に奈良時代から平安時代にかけて、国家の重要な出来事や神事、政治的決定に際して発せられる儀礼的な文書として重視されました。宣命は「宣（の）る命（みこと）」すなわち「天皇の命を宣（の）る」という意味を持ち、単なる命令文ではなく、天皇の神聖な意思を国中に示すための重要な手段でした。

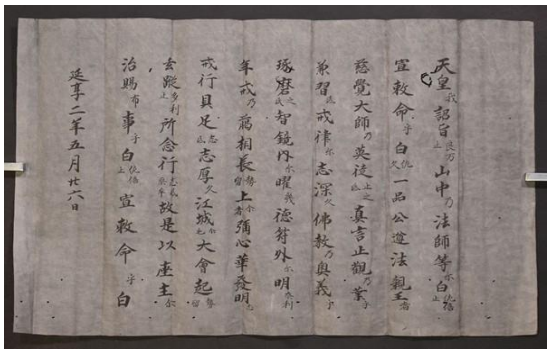
宣命が発せられる場面はさまざまでした。たとえば、皇太子の立太子や天皇の即位、大臣の任命、また神社への奉告や国家的な祭祀などがその対象となります。これらの場面では、天皇の権威と神とのつながりを国民に示す必要があり、そのために儀式的かつ荘厳な文体が求められました。宣命は、天皇が直接語りかける形式をとることで、その神聖性と国家の正統性を強調する役割を果たしていました。

宣命は、単に書かれるだけでなく、儀式の場で声に出して読み上げられることが前提となっていました。そのため、読みやすく、聞き手の心に響くようなリズムや構成が重視されていました。文章には繰り返しや対句的な表現が多用され、聴衆に深い印象を与えるよう工夫されています。また、文末には「かしこみかしこみもうす」といった決まり文句が使われ、天皇に対する敬意と儀式の荘重さが表現されています。

宣命の文章に使われる文体は「宣命体（せんみょうたい）」と呼ばれ、当時の日本語を漢字で表記する特殊な形式でした。宣命体では、万葉仮名という表記法が用いられます。万葉仮名とは、漢字の音や訓を利用して日本語の音を表す方法であり、たとえば「まつる（奉る）」を「麻都流」といった形で表記するなど、意味よりも音を重視した使い方がなされました。このようにして、漢字を用いながらも、日本語の語順や文法に従った文章が成立していたのです。

宣命体は、当時の話し言葉に近い形で書かれており、日本語の発音や語彙を知るうえで極めて貴重な資料となっています。漢文とは異なり、日本語独自の文法要素――助詞や終助詞、敬語など――が頻繁に使われており、当時の言語文化を色濃く反映しています。このため、宣命体は国語学や歴史言語学の研究においても重要な対象となっています。

現存する宣命の文章は、『日本書紀』や『続日本紀』といった歴史書の中に引用されているものや、古社に伝わる古文書の中に残されています。有名な例としては、大嘗祭において神に奉げる宣命や、天皇の即位に際して発せられる宣命などが挙げられます。これらの宣命は、政治的な意図だけでなく、宗教的な意義も持ち、古代の国家と神道との密接な関係を示しています。また、宣命は国家の統治手段としても重要な役割を果たしていました。律令制度のもとでは、文書による行政が重視されるようになり、その中で天皇の命を正式な形で伝える手段として、宣命は大きな位置を占めていました。とりわけ、人事に関わる任命や辞令、法令の公布などにおいて、宣命は国家の公式な意思表示として機能していたのです。まとめますと、宣命は古代日本における天皇の神聖な命を国民に伝えるための公文書であり、その文体である宣命体は日本語と漢字文化が融合した独自の表現形式です。宣命は政治、宗教、言語の三つの側面において重要な意義を持ち，今日では古代日本を理解する上で欠かせない資料となっています。宣命を読み解くことで、私たちは古代人の言葉の力に対する意識、天皇と神々、そして国家との関係について、より深く知ることができるのです。



桜町天皇宣命
https://aucfree.com/items/g385760836

神社豆知識

《安房神社の浜降り神事③》

大神宮区上郷地区に伝わっていた鞨鼓舞
後ろの高張提灯に「上郷青年」と書いてあるのが確認できる
手前の人物が竹製のササラを擦り、音を出して蛙の鳴き声を表現する

安房神社の浜降神事は戦後数年続けられた後、諸般の事情により中止となりました。平成三十年の当社の御遷座千三百年記念大祭の折に復活したのが最後となります。今号では浜降神事の行列に欠かせなかった、大神宮区内上郷(かみごう)地区に伝わる(残念ながら現在は廃絶)鞨鼓舞についてご紹介します。

この鞨鼓舞は上郷区の青年団が奉仕し、もとは雨乞いの時に舞われたものであると言われています。八月十日の浜降神事に参加する為に、八月一日、地区内の戸主が集会所にて段取りを決定します。構成は、世話人四、高張一、〆縄持ち三、獅子舞六(三人一組で二組)、笛四、ササラ四、荷物持ち等からなり、これは各戸主の話し合いで決められます。翌二日から練習が開始され、午後七時～十二時頃まで当番の家で行い、八日まで続けられます。九日は総練習日と称し、午後三時～七時ごろまで小塚大師の境内で、部落の人々を集めて練習の成果を見てもらいます。この鞨鼓舞は小塚全体の行事であるので、八月一日～十日までは必ず各戸から一人以上は出て奉仕及び手伝いをしなければなりませんでした。八月十日は午前十時頃、部落の宿(当番)から、安房神社までは徒歩で移動します。鞨鼓舞は安房神社、御旅所で舞われますが、依頼を受ければ個人宅でも舞っていたそうです。

安房あづち茶屋

安房神社の神池前には「安房あづち茶屋」がございます。

色付く神池後方の吾谷山(あづち)を眺めながら、癒し処として心静かに穏やかなひとときを過ごされますよう御利用下さい。

温かいおにぎりセットや、おみやげ物として房州銘菓もございます。是非お立ち寄り下さい。

営業日　土、日
振替休日の月曜日

営業時間
午前十時半～午後四時

※境内自由参拝について

大晦日のみ終日参拝が可能ですが、それ以外については、**早朝六時～午後六時頃まで**となっております。

警備・防犯上の都合により、時間外は境内への立入りを一切禁止しております。

※冬季は日没が速い為、防犯の理由から時間前に閉じる場合があります。

【御水取り・御砂取りの作法】

当社で「御水取り・御砂取り」をされる際には祈祷受付にて御申込み頂き、殿内にて御祓いを受けた後に御水取場・御砂取場にお進み頂いております。

これは御本殿近くの清浄な御水取場・御砂取場に、外界の穢れを持ち込まない為の重要な作法ですので、御時間に余裕を持って御来社されることをお薦め致します。また大型ポリタンクなどによる大量の御水取り、過度の御砂取りは御遠慮願います。なお、御神水飲用の際には**必ず煮沸いただきますよう**お願い致します。

※一般参拝者の御水取場・御砂取場への立入りは右記の理由から禁じております。また時間外の御水取り、御砂取りは一切出来ませんので、必ず受付時間内にて御申込み願います。

・**神符守札の授与、御朱印**
午前八時三十分～午後五時

・**御祈祷、御水取りの受付**
午前九時～午後四時

令和七年五月十五日発行／安房神社々務所
〒二九四-〇二三三　千葉県館山市大神宮五八九番地
電話　〇四七〇-二八-〇〇三四
FAX　〇四七〇-二八-〇四三八
HP　http://www.awajinjya.org/
Face Book　下記QRコード参照